



大糸屋の夜更し  
五十五号

東京 豊原島塩町の内海曲豆吉を娘おとよの目町守屋

儀兵と明治八年正月頃より中より成り未ハ夫婦の約束はまをれ

ども世間の憚りも有り又親類の嫌ひて當六月五日外より

嫁を貰ひ今誓禮の時おとよの母が長きうのちをれ

込と相生結んごころが嫁

と三々九度のくどくと大言の

罵とび自鼻のく飯の世に嫁を今方車ゆて

逃出を嫌人の扇の腕をぬかす四海

浪の静るるるる天騒動いよ小巡査の

待厄付成り親の名をて流せし血辱天

我儘小正月をぬすむせのいよるるあことけ

出来まゝとの讀るる百廿五号二出

大水堂狸昇記



中野政太郎

大糸屋

五十五号